

## ふるさと遠野の魅力発信デザインプロジェクト

人文社会科学部人間文化課程（芸術文化）  
ヴィジュアルデザイン研究室学生グループ

指導教員：教授 本村健太（人社・芸文）

### 序

遠野市は豊かな自然と文化を有しながらも、全国的な認知度やブランド力が低下し、観光客入込数も伸び悩んでいるという。

この背景には、一貫性あるブランド戦略の欠如が挙げられ、地域の魅力を十分に伝わっていない現状も考えられる。これらの課題を解決するための手段として、地域資源をもとに、SNSが普及した現代に合った新しい動画コンテンツ等による発信に期待が寄せられている。

しかしながら、従来の手法では相当額のコストを必要とするうえ、取り上げる素材の絞り込み、取材、シナリオ作成、撮影、編集など、多くの時間と労力がかかり、地域の担い手の減少下にあっては、その実施が難しい状況になってきている。そこで、遠野に関する地域資源のデザイン（写真やイラスト）をもとに、AI等の新しい技術を活用した動画コンテンツづくりに岩手大学の学生たちとの協働で取り組むことにより、少ない担い手でも、少ない経費で簡潔に地域の魅力発信が実施できる可能性を探りたい。



図1：産学官連携による共同研究の成果事例（本村健太教授）

本研究課題と直接的には関連しないが、遠野市の魅力PR支援に関する岩手大学学生の過去の活動については、平成27年（2015年）度開始した「萌えキャラ」（綾織楓花・早池峰あすか・小鳥瀬弥子・高室エマ）の提案がある。その後、このキャラクターのうち「綾織楓花（あやおりふうか）」については、指導教員の本村健太教授が引き受けた産学官連携の共同研究（平成2～6年度）につながった。（図1）

VRoid Hub「巫女の綾織楓花」（ダウンロードしてアバターとしての使用可能）

<https://hub.vroid.com/characters/4423856568162894323/models/1137571194515867470>

## 令和7年度地域課題解決プログラム

今年度の研究課題に関する岩手大学人文社会科学部のヴィジュアルデザイン研究室学生グループの取り組みについては以下に報告したい。

なお、卒業研究としては、田頭由希乃が「遠野市の魅力発信における映像制作研究」に、大学院1年生のFU YI TING（フ イテイ）が来年度の修了研究を行う準備段階として取り組んだ。

### I. 本研究課題について

#### (実施計画・方法)

遠野市と岩手大学学生の協働における役割分担と実施方法については次のように計画する。まず、遠野市より課題と素材（地域資源）の提供があり、それを受けて、学生側でアート思考・デザイン思考によるアイデアの創出とコンテンツ試作や手法の提案をする。学生によるコンテンツや手法による成果について、遠野市側では市ホームページやSNS等での情報発信を試み、それらの反響などの効果測定を行う。

まずは、本研究計画に興味を持って関わる担当学生を複数集めてグループを形成して、卒業研究、または関連分野の体験学修としての枠組みを明確にしていく。この学生グループを中心に、産業部商工労働課の佐藤壮馬さんと協議を行いつつ、具体的な実施内容の詳細を詰めていくことにする。

具体的な内容については、協議によって明確にしていくが、学生の目線からのブランド戦略の検討を行いつつ、イラストやマンガのコンテンツの提供とともに協働での動画制作の試みや手法の提案を予定している。

#### ○方法

関係者間で協議し、令和7年度の研究課題においては、大きく次のような内容で行うことを計画した。

1. 遠野市職員と学生の共同ワークショップ（動画制作のトレーニング）
2. 学生による遠野魅力発信に関するコンテンツ制作

以下に、今年度における研究活動の経過について報告する。

### II. 今年度における研究活動の経過について

#### (結果・考察)

#### ○「地域協創入門」受講者による提案・アイデアのまとめ

2025年5月19日（月）、岩手大学「イーハトーヴ協創コース」における「地域協創入門」（担当：本村健太教授）において、約180名の履修者は遠野市長 多田一彦さんの話を拝聴した。また、遠野市役所の方々4名も加わり、グループトークを実施した。大学院1年生のFU YI TING（フ イテイ）も参加した。

履修者への事前の質問「今現在、遠野市について興味がありますか？」

154件の回答より

とくに興味はない（普通）：57.4%

興味があり、行ったことがある：17.6%

興味はあるが、行ったことはない：16.2%

その他（「知らない」を含む）：8.8%

## 令和7年度地域課題解決プログラム

このアンケート結果からは、3割を超える学生が遠野市に興味があり、そのうちの約半数は、実際に遠野市を訪れたことがある一方で、「とくに興味はない」、あるいは「知らない」などと答えた学生が6割を超えることがわかった。

このような状況で、遠野市長の話をお聴いた学びや、その後に学生たちが考案した市の活性化案について履修者によるレスポンス(授業後の感想や提案のまとめ)は以下の通りである。

(生成AI活用)

遠野市長 多田一彦さんの話を聴いて：

### 1. 遠野市の経営戦略：「株式会社遠野市役所」としての視点

学生たちの多くが、市役所を「株式会社」と捉え、稼げる自治体を目指すという市長の斬新な考え方に強い感銘を受けています。

- **負の遺産の整理と未来への投資**：赤字の第三セクターの整理や、将来的な財政破綻を防ぐための上下水道事業の見直しなど、現状を先送りにせず「負の遺産」を排除する姿勢が評価されています。
- **教育・産業への重点投資**：予算の13%を教育に充て、英語教育や不登校対策、高校魅力化に取り組む姿勢や、気候変動を見据えた果樹栽培(ブドウなど)への注力が、将来世代への「有効な投資」として捉えられています。
- **「課題」を「チャレンジ」へ**：課題をただ考えるだけでなく、アクションへ繋げるための「チャレンジ」として捉え直す前向きな姿勢に、多くの学生が勇気づけられています。

### 2. 「デザイン思考」の実践と重要性

講義の核となった「政策をデザインする」という概念について、学生たちは理論と実践の結びつきを学んでいます。

- **明確なイメージの共有**：政策を単なる事務作業ではなく、未来の理想の姿をデザインし、市民と共有することが信頼と満足度向上に繋がると理解されました。
- **言語化と可視化**：ぼんやりとした思考を言語化し、ペルソナを設定するなどのデザインプロセスの重要性が、今後の学生自身の活動にも活かせると述べられています。

### 3. 学生たちが提案する遠野市活性化案

グループワークを通じて、遠野の資源(カップ、ホップ、遠野物語、自然)を活かした多様なアイデアが出されました。

- **SNS・デジタル戦略**：若者や海外への認知度を高めるため、InstagramやTikTok、YouTubeを活用した「映える」スポットや動画の発信、インフルエンサーとの協力、さらにはメタバース上に「バーチャル遠野」を構築する案が目立ちました。
- **キャラクター・エンタメの活用**：「カップ」や「座敷わらし」をモチーフにしたテーマパーク、ARアプリ、ポケモン等とのコラボ、萌えキャラやVTuberによる広報、聖地巡礼ツアーなどが提案されました。
- **食と体験の融合**：ホップ収穫祭の強化、地ビールとジンギスカンのセットメニュー、果物狩り、古民家カフェ、さらには「カップ捕獲」をテーマにしたイベントや謎解きゲームなどの体験型観光が挙げられました。
- **広域連携と交通**：花巻、遠野、釜石を電車で繋ぐ豪華な「釜石線旅行プラン」や、二次交通(シャトルバス等)の整備による利便性向上の必要性も指摘されています。

### 4. 学生の意識変化と今後の決意

今回の講義は、学生たちのキャリア観や地域活動への意欲に大きな影響を与えています。

## 令和7年度地域課題解決プログラム

- **公務員像の刷新**：公務員は単に安定した職業ではなく、「地域や世界を変えることができる情熱的な仕事」とであると認識が変わったという意見が多く見られます。
- **主体的参加の重要性**：「変えてほしい」と要望するだけでなく、自ら行動し、市民として町作りに主体的に参加したいという意識が芽生えています。

遠野市の取り組みは、学生たちにとって「古き良き伝統を維持しながら、会社のように効率的かつクリエイティブに未来を切り拓く」という、新しい地方自治のモデルとして映ったようです。

例えるならば、この取り組みは「老舗旅館の革新的なリニューアル」のようなものです。歴史ある建物の情緒（伝統や民話）を大切に守りながらも、内部のシステムを現代的にアップデート（財政改革や教育投資）し、SNSなどで新しい顧客層（若者や移住者）を呼び込むことで、次の100年も愛され続ける場所を作ろうとしている姿に、学生たちは共感と希望を見出しています。

—  
以上。

この内容は、生成AIのNotebookLMを活用し、ポッドキャスト風にまとめた：  
<https://youtu.be/moSdHng13YU>（限定公開）

### ○遠野市見学と研究課題の打ち合わせ

- 令和7年7月26日（土）

FU YITING（フイテイ）、工藤涼、田頭由希乃、大和田美咲、柚澤友梨、高橋有佳の6名（引率：本村健太教授）が参加した。

遠野市産業部商工労働課の佐々木課長さん、佐藤壮馬さんにご案内いただき、遠野市役所、道の駅 遠野 風の丘、遠野市立博物館、ショッピングセンターとぴあ、遠野観光協会を訪れるとともに今後の活動の打ち合わせを行った。また、ツーリズムに関連して下記の新たなスポットも見学した。（図2）

#### ウィークリーハウス TRC 仲町

遠野市内にある空き家、空き店舗、未利用土地などを積極的に利活用

1週間（7日間）単位で宿泊できるウィークリーハウス

<https://www.tonoshi-trc.com/weekly-house>

#### GOOD HOPS 日本産ホップの未来を拓く新しい醸造所

醸造だけでなく、自社で新品種ホップの開発・栽培や加工技術の研究を行う

<https://goodhops.jp/>



図2：遠野市内における各所の見学

## 令和7年度地域課題解決プログラム

### ○遠野市見学（2回目）と撮影取材

・令和7年11月22日（土）

FU YITING（フ イテイ）、田頭由希乃、大和田美咲、佐藤明日香、柚澤友梨の5名（引率：本村健太教授）が参加した。

今回も佐藤壮馬さんにご案内いただき、伝承園、カップ淵、たかむろ水光園、卯子酉（うねどり）神社、遠野市役所、ショッピングセンターとぴあ、遠野観光協会を訪れ、見学をするとともに撮影を行った。（図3）



図3：遠野市内における各所の見学・撮影

#### 遠野伝承園

<https://www.densyoen.jp/>

#### たかむろ水光園

<https://www.tono-suikouen.jp/>

#### カップ淵

<https://tonojikan.jp/tourism/kappabuchi-pool/>

#### 卯子酉神社（遠野時間）

<https://tonojikan.jp/tourism/unetori-shrine/>

○学生による自由制作（遠野魅力PRに関連した作品化）

前期の「造形実習（視覚文化）E」（担当：本村健太教授）の履修者に本研究課題を説明し、希望者による作品化は下記の通りであった。（図4）



図4：学生による自由制作（制作：菅原世奈・飛澤蘭奈・高橋有佳）

○岩手大学学生と遠野市職員の共同ワークショップ（教育学部サイバースタジオにて）

・令和7年10月21日（火）・11月25日（火）・12月16日（火）

岩手大学ヴィジュアルデザイン研究室の学生および後期の「造形実習（視覚文化）F」（担当：本村健太教授）の履修者を対象に、遠野市若手職員5名の方々とともに共同で、Canvaを用いた動画制作のワークショップを行った。（図5）

全3回の構成で、各回とも学生・市職員混合のグループを作り、グループ内のメンバーで情報交換しながら動画制作を自らの手で習得していくように設定した。

## 令和7年度地域課題解決プログラム



図5：岩手大学学生と遠野市職員の共同ワークショップの様子

### ○遠野 PR ショート動画の成果

Canva を用いた動画制作の共同ワークショップの成果としてそれぞれの動画が完成し、お互いに成果を共有した。(図6)

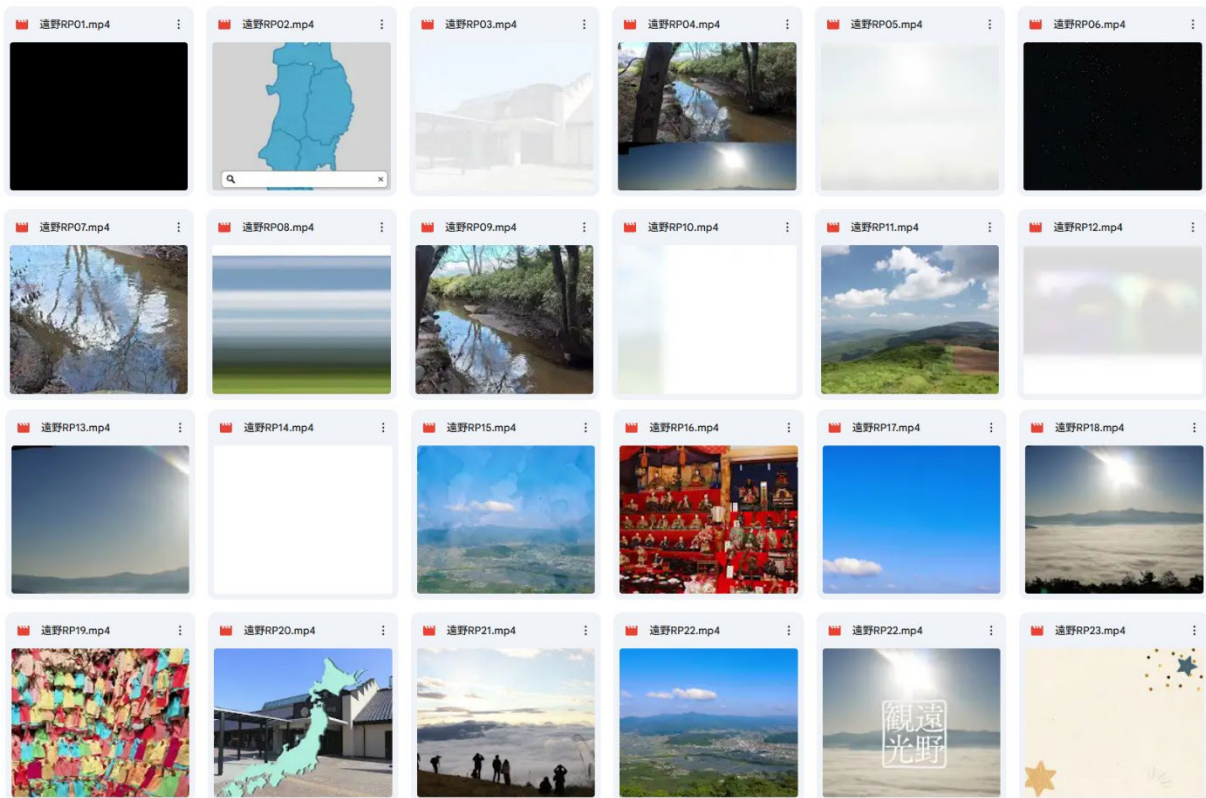


図6：ワークショップ参加者による遠野魅力発信を目指した動画の成果



動画の閲覧・ダウンロード：

[https://drive.google.com/drive/folders/1XVSK639hUdEvDecAfIfVFU2S4x\\_6M9zX](https://drive.google.com/drive/folders/1XVSK639hUdEvDecAfIfVFU2S4x_6M9zX)

### ○遠野市職員 S さんの作品事例

共同ワークショップに参加された遠野市職員の方々もそれぞれ動画制作をご体験していただいた。

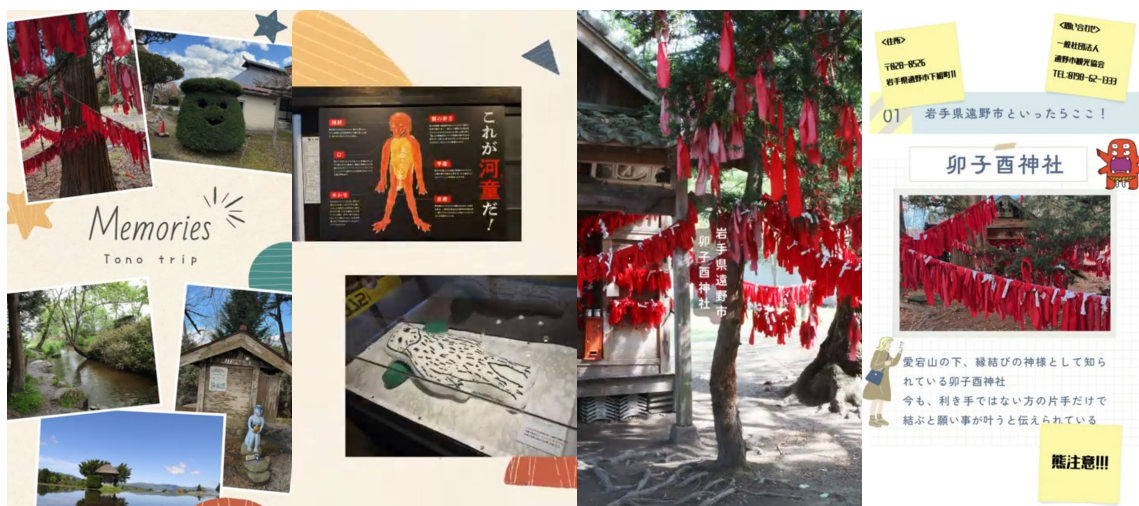


図7：遠野市職員による動画制作の成果（スクリーンショット）

### ○遠野市商工労働課 佐藤壮馬さんよりコメント

学生の皆様への講義においては、遠野市および市役所をPRする貴重な場をご提供いただき感謝しております。

講義後に頂戴したフィードバックでは、数多くの示唆に富んだご意見を拝聴し、当方としても大変学びになりました。また、映像ワークショップでは、学生の皆様と一緒に手を動かしながら知見を深めることができました。すでに実務でもチラシや動画を作成しており、大いに活用していたところです。

改めて、本村先生をはじめ、学生の皆様には心より感謝申し上げます。来年度以降も貴学との連携を様々な形で継続できれば幸いです。

この度は誠にありがとうございました。

## 令和 7 年度地域課題解決プログラム

[謝辞]

本研究プロジェクトに関して、遠野市産業部商工労働課の佐藤壮馬さんをはじめ、遠野市職員の皆様にたいへんお世話になりました。心より御礼申し上げます。